



バイブル

～変革者の決断～

神戸精化株式会社

代表取締役社長

まつなが ゆうじ
松長 祐史 氏

会社経営は一筋縄ではいかないもの。危機に直面した時どのように乗り切ったのか、事業の転換をどう成し得たのか、何を抛り所に経営しているのかなど、地元経営者の教訓・想いに迫ります。

第81回は、ポリ乳酸をはじめとする化学品輸入や、各種化学品の受託生産業務を行っている神戸精化(株)の松長祐史社長です。大学時代は日本拳法部の主将を務め、バブル期には証券会社も経験。その後は中国に語学留学したのち家業を手伝い、日中貿易に奮闘する松長社長にお話を伺います。

松長 祐史 (まつなが ゆうじ) 氏

昭和42年12月3日生まれ、名古屋学院大学経済学部を卒業。

平成2年4月、今川証券(株)〈現：リテア・クレア証券(株)〉に入社。

平成5年、上海外国語大学(漢語科)に入学。

平成7年、当社に常務取締役として入社。

平成20年3月から代表取締役社長に就任。

■ 幼少期

昭和42年に兵庫県宝塚市で生まれました。父、母、私、弟の4人家族でしたが、父は同じ兵庫県内でも西側にある姫路市内の工場に勤務していたため、平日は顔を合わすことがなく、週末に帰って来る生活でした。そのため週末は、父とキャッチボールやキャンプ、スキー、アーチェリーなどをして家族との時間を十分にとってくれました。

一方、母は自宅で薬局を営んでいたため、私は早くから幼稚園に通っていました。弟は、いつも子分的な存在でしたが、母の目が届くときは、何か不満事があったとしても長男なので我慢しなさいと諭されていました。

■ 小学生

森や山道を潜り抜けて40分程の通学時間を要しながら、売布(めふ)小学校に通っていました。少しでも寄り道をしながら帰っていると、1時間程かかる行程であったため体力が尽きたと思います。小学4年生からは隣町の小浜タイガーズという少年野球チームに入り、土・日が野球漬けの日々となりました。当時は厳しい時代で、練習中に水を飲んでダメと言われ、監督やコーチが怖い存在でした。6年生でようやくレギュラーを掴み取り、5番バッターとしてセカンドを任されるようになりました。この時、一番印象に残っているのは、私自身のことでなく卒業試合で補欠のメンバーが代打で出場の機会を得たことでした。練習を共にしたメンバーの一生懸命さが報われたことに対して涙した記憶があります。

■ 中学生、高校生

周囲の友人と同じように宝塚中学校に進学しました。しかし、父と離れ離れの生活が続いていたため中学2年生からは家族で姫路市内に引っ越し、近くの安室中学校に通うようになりました。私も弟も思春期に差し掛かる頃であったため、両親の配慮があったのだと思います。テニス部に所属

していましたが部活動での記憶は薄く、それよりも同級生が話している播州弁のしゃべり方が怖かった印象を持っています。

その後、姫路南高校へと進学しました。自宅から公共交通機関ではアクセスが悪かったため、自転車で1時間程の時間をかけて通学していました。このため同じ中学校から同校に通う友人が少なく、ゼロから人間関係を作るのに苦労した思い出があります。通学に時間を要したこともあり、部活動はせず気ままな青春時代を過ごしました。大学受験のタイミングでは、学力が追い付かず浪人生活も考えましたが、名古屋学院大学に入学することができました。

■ 大学生

『空手バカー代』というマンガの影響を受け、高校では土道館という空手道場に2年程通っていました。その経験もあって大学では、体育会の日本拳法部に入部しました。上下関係は厳しく、1回生の時は2回生としか喋らせてもらえず、4回生と口を聞くことすらできませんでした。また、上級生からの指示は、理不尽なことでも「押忍」の一言で快諾しなければなりません。バブル経済絶頂でDCブランドが流行した華やかな頃でしたが、武道系の部活動は揃いのジャージか、学ランと部旗を持つ男臭い集団でした。4回生の時には15代目の主将を任され、部活全般を牽引する存在となっていました。同級生には体育会全体を取り仕切っていた委員長の金原君がおり、彼が副主将を務めてくれたことも大きな支えとなりました。

この他に大学生の間は、日銭を稼ぐためにパチンコ屋のアルバイトを1回生～3回生まで経験しました。軍艦マーチがバックで流れる呼び込みの口上は、今でも体に染みついています。4回生では就職活動のためアルバイトを辞めてしまいましたが、体育会系の主将を務めていたこともあって、同級生より早く就職内定を得ることができました。



■ 社会人

就職活動はバブル期に花形であった、不動産業か証券会社に狙いを絞って行いました。大学生活を過ごした名古屋ではなく、大阪か神戸に戻りたいとの思いがあり、本店が関西にある証券会社を選ぶことにしました。

平成2年、大阪本店の今川証券(株)〈現：リテア・クレア証券(株)〉に入社しました。関西に戻って仕事がしたかったのですが東京金融法人部に配属されました。銀行や信託銀行などの機関投資家が主要顧客であったため、金融用語を勉強するよう先輩から指導を受けました。土曜日はまだ世の中が、半日出社の風習があった時期だったので、昼からは先輩と日経新聞の読み合わせや、勉強会をしていました。先輩からは分からない用語はimidas(現代用語辞典)で調べるよう指導を受け、新聞を読み込むことも習慣になりました。専門用語を覚え、自身で金融市場レポートを書く練習を続けました。後にこれは私の大きな糧になりました。1年目の冬のボーナスは100万円をもらい、同世代よりも給料は良かったのですが、3年目を迎える頃にバブルが完全に弾けボーナスが減り、株価低迷の時代を迎えました。

■ 転機

そんな時、父から仕事の手伝いをしないかとの誘いを受けました。父は仕事を通じて台湾人からレクチャーを受けており、これからは中国の時代が来るとの考えから、中国企業との合弁会社を作ろうと構想を練っているタイミングでした。バブル崩壊によって証券会社での生活に先が見えないと思い始めていた頃なので、会社を辞め父の仕事を手伝うことにしました。

ただ、語学力が皆無であったため平成5年から中国に留学し、上海外国語大学(漢語科)で勉強することになりました。いわゆるマンダリンと言われる北京語ベースの言語を学んでいました。午前中は授業を受けるのですが、午後はフリーとなるスケジュールでした。コンビニなどはなかったですが、市場がありラーメン1杯10円、ビール1本20円など当時物価が安かったことから足繁く通いました。市場では学校で勉強している北京語ではなく、上海語が使われていたので興味が湧き徐々に上海語が聞き取れるようになって来ると、これを何グラム欲しいなどの具体的な交渉ができるようになっていました。

■ 当社入社

中国での語学留学を終えた平成7年、常務取締役として当社に入社しました。父が当初計画していた中国企業との合弁事業は立ち消えになっていましたが、留学の経験を生かすために、中国化学品専門の商社としてスタートを切ることになりました。最初は、参入障壁が低く入りやすいマーケットとして、食材の輸入から始めることにしました。フグや里芋の輸入によって2～3年を凌いでいましたが、化学品も徐々に輸入するようになっていきました。ただ、中国のケミカル品は安価ですが粗雑な物が多かったため、日本の市場では当初受け入れられませんでした。

梱包の仕方、ラベルの張り方、並べ方など日本的な管理（ジャパニーズ・スタンダード）が、中国のそれとは全くレベルが違うことを思い知らされました。このため取引先をお願いをして、倉庫の中を見せてもらい、何が悪いのかを勉強しながらバージョンアップを重ねることになりました。手探りの状態でしたが、競争市場で生き残って行くために必死でした。

■ 代表として

平成20年、父に代わって当社の代表取締役社長に就任しました。この頃には、取り扱うアイテム数も増え、中国国内で見つからない製品を現地生産してほしいとお客さまの要望も増えてきました。化学品の専門商社ではありますが、メーカー視線で日本と同じ規格試験が行えるよう、分析機器を中国に持ち込み、研究開発と分析ができる法人を立ち上げました。これにより中国の安価な原料を使いこなし、日本の規格に適合する製造方法を開発することができるようになりました。現在では、トウモロコシなどのでんぷんから作られるニュータイプのプラスチック「ポリ乳酸」の輸入を環境配慮型ビジネスとして軌道に乗せることができています。バイオマスと生分解性両方の機能を持つ「ポリ乳酸」は、石油由来の原料削減につながることもあってSDGs（持続可能な開発目標）が求められる今、脚光を浴びています。環境問題への関心を高めるために当社はSDGs宣言を行い、「ポリ乳酸」についてはホームページなどを通じて、啓蒙活動を続けたいと思っています。

中国からの輸入ビジネスを続けるなか、現地の優良なパートナー企業に巡り合えたことが当社の財産となっています。最近では令和4年8月16日に「ポリ乳酸」メーカーの浙江海正生物材料が上海証券取引所に上場したことを嬉しく思っています。経済情勢が目まぐるしく変化するなか、日中貿易を長く続けることができたのは、仕事を通じて知り合った友人や先輩、私を支えてくれる社員のお陰だと思えます。今後も忘己利他の精神で、仕事を続けたいと考えています。

会社概要

神戸精化(株)

(TDB企業コード：530518160 法人番号：9140001007765)

事業内容：化学品輸入

設立：平成6年3月

所在地：神戸市中央区磯辺通1-1-18

カサベラ国際プラザビル504号室

電話：078-891-7781 FAX：078-891-7785

URL：<https://kobeseika.co.jp/>

